

イアン・マキューアンの小説における科学的言説  
ニューサイエンスとの関わりを中心に

水産大学校 准教授 高本孝子

1. Ian McEwan (1948-) の略歴

1948年 ハンプシャー州のオールダショットに生まれる

軍人だった父親の駐屯の関係で、幼少の時期を東アジア、ドイツ、北アフリカなどで過ごす

1970年 サセックス大学にて英文学学士号取得

イースト・アングリア大学大学院にて文学修士号取得（マルカム・ブラッドベリー、アンガス・ウィルソンらより小説創作指導を受ける）

1972年 アフガニスタンをヒッピーとして放浪。帰国後、創作活動を開始。

2. 主な作品

小説 *First Love, Last Rites* (1975) 短編集

*In Between the Sheets* (1978) 短編集

*The Cement Garden* (1978)

*The Comfort of Strangers* (1981) ブッカー賞ショートリスト

*The Child in Time* (1987)

*The Innocent* (1990)

*Black Dogs* (1992) ブッカー賞ショートリスト

*The Daydreamer* (1993)

*Enduring Love* (1997)

*Amsterdam* (1998) ブッカー賞受賞

*Atonement* (2001) ブッカー賞ショートリスト

*Saturday* (2005)

*On Chesil Beach* (2007) ブッカー賞ショートリスト

脚本 *The Imitation Game* (1981)

*Or Shall We Die?* (1983) (Michael Berkeleyによるオラトリオの脚本)

*The Ploughman's Lunch* (1985)

*Sour Sweet* (1988)

### 3. 本発表で取り上げる主な作品の梗概

#### *The Child in Time* (1987)

サッチャーもどきの首相による極端な弱者切り捨て政策が横行する近未来のイギリス(1996, 2000年あたり)の設定)。児童文学作家Stephen Lewis (Stephen HawkingとLewis Carrollのもじりか)は、行方不明になった3歳の娘Kateを失った精神的痛手から立ち直ることができず、妻Julieとも疎遠となり、別居生活を続けている。一方、スティーブンの友人Charles Darkeは、政務次官の地位にまでのぼりつめながら、突然引退して田舎に引っ越し、物理学者の年上の妻Thelmaを母親代わりにして、子どもに退行しようとする。

スティーブンは、量子力学的時間観に由来するいくつかの不思議な時間体験をする。そして、子どもに戻ることも大人の世界に戻ることもできなかったチャールズがジレンマのあげくに自殺したことを契機として、スティーブンは徐々にケイトの喪失を受け入れることができるようになる。やがて、妻と再び心を通わせることができ、ふたりで新しい生命の誕生を祝う。

#### *Black Dogs* (1992)

BernardとJune Tremaine夫妻は、結婚前は共産主義の理想に燃え、共に社会の改革を目指していた。しかし、第二次世界大戦直後の新婚旅行の途中、フランスの峡谷をピクニックしていたときに、ジューンひとりだけが悪の象徴のような2匹の黒い犬に襲われかけ、自分の内に宿る光(神)に助けられる。その事件を境にジューンは神秘主義を信奉するようになり、合理主義を貫くバーナードとは、惹かれ合いながらも互いに受け入れられない関係となる。ジューンの死後、彼女の回顧録の執筆を進める娘婿のJeremy(語り手)は、2つの主義思想の間で揺れ動きながらも、ベルリンの壁崩壊現場で暴力事件に遭遇したことなどを契機として、自分の外と内とに遍在する悪についての認識を深めてゆく。

#### *Amsterdam* (1998)

作曲家のClive Linleyと雑誌編集長のVernon Hallidayは友人同士。若い頃の共通の友人Molly Laneが脳の病気で他界し、彼女が持っていた外務大臣Julian Garmonyの秘密の女装写真がヴァーノンの手に渡った。スキャンダルを大々的に報道して、雑誌の売り上げを伸ばそうとするヴァーノンを、モリーに対する裏切り行為だとして非難するクライヴ。ヴァーノンもまた、レイプを目撃しながら、作曲活動を優先し、警察に通報しなかったクライヴを非難し返す。仕事上で大失敗し、社会的に破滅したふたりは、互いに対する逆恨みのあげく、安楽死が合法化されているオランダのアムステルダムにおいて、安楽死という名目のもとに毒殺し合う。

### 4. 科学に対する親近感

It's just that science itself seems to me a great tribute to human ingenuity. It's a great mistake to exclude ourselves who are not scientists from it. And I think we're all entitled to embrace science. It's part of what we've achieved.

[“The Space Books Feature: Ian McEwan,” *The Australian Broadcasting Corporation's Gateway to Arts and Culture*, 1 June 2003 <<http://www.abc.net.au/arts/books/stories/s777905.htm>>]

## 5. フェミニズム的関心

*The Comfort of Strangers* (1981)

アメリカのフェミニスト詩人Adrienne Richの詩句をエピグラフに使用。家父長制が支配的だった時代の心性（サディズム／マゾヒズム）が無意識の中に植えつけられている男女を描く。

*The Imitation Game* (1981)

女性であるがゆえに組織に組み込まれず、自己実現を阻まれた主人公の葛藤を描く。

*Or Shall We Die?* (1983)

核兵器開発に夢中になった男性たちと、核戦争の犠牲になった母娘とを対比して描く。タイトルは作品中の女性のセリフ"Shall there be womanly times, or shall we die?"に由来する。イントロダクションの内容はマキューアンのニューサイエンス指向を明白に示している。

*The Innocent* (1990)

男性性のネガティブな表れとしてのサディズム衝動を、第2次大戦による大量殺戮と重ね合わせて描く。

## 6. "the novels of ideas" にほぼ共通するテーマ

*The Child in Time / Or Shall We Die?*

新（現代）物理学（量子力学／相対性理論）・女性原理 & 古典物理学（ニュートン力学）・男性原理

*The Innocent* 男性原理 & 女性原理

*Black Dogs* 女性原理・東洋的神秘思想 & 男性原理・西洋的合理主義

*Enduring Love* 女性原理・ロマン主義（感情・直観を重視）& 男性原理・合理主義

## 7. 古典物理学と男性原理／現代物理学と女性原理 この図式の思想的根拠はどこにあるのか？

現代物理学が科学を「女性化」する

- (1) One could characterize these two world-views the Newtonian and that of the new physics as representing a male and female principle, yang and yin.

[Ian McEwan, Introduction, *Or Shall We Die?* (London: Jonathan Cape, 1983) 19.]

- (2) [S]he [Thelma] ... told him [Stephen] how quantum mechanics would feminize physics, all science, make it softer, less arrogantly detached, more receptive to participating in the world it wanted to describe [...] [Ian McEwan, *The Child in Time* (1987; New York: Anchor Books, 1999)45.] (下線は発表者)

## 8. 古典物理学と現代物理学のちがい

古典物理学 ニュートン力学（肉眼で見える程度の大きさの物体間に働く）

現代物理学 量子力学（原子の中の素粒子（電子、陽子、中性子）間に働く力学を説明する理論）

原子核の直径は原子の直径の十万分の一。しかし、原子核は原子の質量のほとんどすべてを占める。

量子力学においては観察測定者は観察する対象の一部に組み込まれる

Objectivity does not exist in quantum mechanics. The observer is a part of what he observes. Reality is changed by the presence of the observer he can no longer pretend to be invisible. Matter can no longer be thought of as being composed of minute, hard 'bits'.... [McEwan, Introduction, *Or Shall We Die?* 16-7.]

原子物理学では、ある対象の性質を測定しようとしたとき、観測者はどのように決めても、その実験の段取りによって観測される対象の性質も変わってしまう。ある素粒子を観測するとき、とくに粒子の位置と運動量（粒子の質量に速度を掛けたもの）を測定しようとしても、このふたつの量の正確な値を同時に測定することはできない。粒子の位置を正確に測定しようとするとは粒子は明確な運動量を持たなくなり、運動量を測定しようとするとは、明確な位置を持たなくなる。それは、測定技術が不完全だからではない。このように、原子物理学では科学者は独立した観測者となることができず、常に対象の性質に影響を与えるような関わりを持ってしまうということである。（ハイゼンベルグの不確定性原理）（参考文献：フリッチョフ・カブラ著、吉福伸逸他訳『タオ自然学』（1979；東京： 工作舎, 1989）（下線は発表者）

## 9. 男性原理 / 女性原理についてのマキューアンの主張

### (1) "detachment"の男性原理と"participation"の女性原理

（各々、古典物理学と現代物理学のキーワードに重なる）

We stand separate from our world and from ourselves and from each other describing, measuring, shaping it like gods [...] Logic, discipline, objectivity, thought unclouded by emotion, are qualities traditionally associated with the male, and patriarchal values are celebrated here in the same manner. [McEwan, Introduction, *Or Shall We Die?* 16.]

### (2) 男性原理と女性原理が等しく発現し、融合することが重要

The male and female in the oratorio were really principles rather than genders: the elements of the feminine and the elements of the masculine, and how our civilization is heavily weighted towards the latter. Male and female should exist in balance within individuals and within society. [John Haffenden, *Novelists in Interview* (London: Methuen, 1985) 182.]

## 10. ニューサイエンスとは？

ニューエイジ・サイエンスの日本での通称。ニューエイジ思想運動の一環として生まれた。

いわゆるデカルト的二元論（要素還元主義、機械論的世界観）の行き詰まりや科学技術文明の弊害に対する批判。東洋の神秘思想に対する関心。

「ニューエイジ・トラベラー」 Cf. マキューアン1972年のアフガニスタン行き

*The Child in Time*のスティーヴンのヒッピー旅行

All these promising spirits, nurtured, brought to excited life by the study of English literature [...] had been disgorged from libraries in the late sixties and early seventies intent on inward journeys, or eastward ones in painted buses. [McEwan, *The Child in Time*, 26.]（下線は発表者）

David Bohm: *Wholeness and the Implicate Order* (1980) (邦訳『全体性と内蔵秩序』)

ニューサイエンスの代表的科学者。 *The Child in Time* 中、物理学者Thelmaの同僚という設定。インドの宗教思想家Krishnamurtiと親交があり、いくつかの共著を公表。精神と物質は不可分、万物は「内蔵秩序」に組み込まれている、と主張。 *The Child in Time* の参考文献として明記された。

Gary Zukav: *The Dancing Wu Li Masters: An Overview of the New Physics* (1979) (邦訳『踊る物理学者たち』) 一般読者向けに量子力学を解説。東洋の宗教が提示する世界観との類似を指摘。カブラの著作の影響大。 *Or Shall We Die?* の「序言」中に引用された。

Fritjof Capra: *The Tao of Physics* (1975) (邦訳『タオ自然学』)

ニューサイエンスの先駆的著作。量子力学と東洋の神秘主義(仏教/ヒンズー教/老荘思想)の類似性を指摘。23か国語に翻訳される大ベストセラーとなるが、科学が神秘を証明するかのような言説を巡り、賛否両論が湧き起こる。2000年に第4版出版。

## 11. ベルの定理と東洋神秘思想

### (1) *The Child in Time* 中の「ベル」

ステイブンが胎児に戻って、パブの窓の外から若い日の父母の姿を目撃する。父母はステイブンを中絶するか否かについて話し合っていたのである。母親は窓をのぞきこんでいる男の子が自分の将来の子供だと直観し、出産を決意する。そのパブの名前は「ベル」(The Bell)。

ベルの定理とは？

「ベルの定理は、数学的構成物でありそれ自体としては数学者でない者にはほとんど理解できない。しかしながら、その意味することは我々の基本的な世界観に深遠な影響を与えよう。(中略) ベルの定理の含みの一つは、宇宙中の「個々の諸部分」は基本的なレベルにおいて本質的に直接的に結び合わさっているということである。要するにベルの定理と「一なるもの」に関する悟りの経験は極めて重なり合うものを持っている。」[ゲリー・ズーフ著、佐野正博・大島保彦訳『踊る物理学者たち』(1985; 東京: 青土社, 1988) 418.] (下線は発表者)

### (2) マキューアンのニューサイエンス的発言(1983年当時)

Increasingly the talk of physicists has come to sound like theology. Their theories and experiments have caused them to place consciousness at the centre of their concerns, and in many sacred texts they find their new understanding eloquently mirrored or extended. [McEwan, Introduction, *Or Shall We Die?* 17] (下線は発表者)

### (3) [H]e [Stephen] did not doubt that what was happening now, and what would happen as a consequence of now, was not separate from what he had experienced earlier that day. (McEwan, *The Child in Time*, 70) (ジュリーとの睦み合い、その結果としての妊娠について)

12. 東洋神秘思想と現代物理学の類似性（カブラの説明）

「東洋の世界観の本質とも言えるきわめて重要な特質は、万物は一体で相互に関連しているという根本的合一性の自覚にある。あらゆるものごとを、宇宙全体のなかの相互に関連しあつた不可分な部分と受けとめ、同じ究極的リアリティがべつな形をとってあらわれたものとみなすのである。（中略）さて、ものごとの根本的合一は、東洋の神秘体験の中心的特質であるだけでなく、現代物理学が明らかにした重要な事実でもある。（中略）物質の構成物およびそれを含む基本的現象はどれも相互に結ばれ、関連をもち、依存しあっている。われわれはここでそれらを分離した実在として理解するのではなく、全体のなかの統合された部分として理解したい。」[カブラ, 146-8.]（下線は発表者）

13. 陽（男性的要素）と 陰（女性的要素）の融合を説く東洋神秘思想（カブラの説明）

「日常生活のなかの重要な極のひとつは、男と女という人間性のふたつの側面である。善と悪、生と死などと同様、われわれには男女の対極性に心地の悪さをおぼえ、どちらか一方を優位におく傾向がある。西洋社会では、伝統的に女性よりも男性の側を重んじてきた。男女ひとりひとりの個性が、男性要素と女性要素の相互作用の結果であることに気づかず、男はすべて男性的、女はすべて女性的、という静的序列を築きあげ、男に指導的役割と社会的特権の大半を与えてきた。こうした姿勢が、行動性、合理的思考、競争、攻撃性、等々の人間性の陽の側面、つまり男性的なるものを過度に強調する結果をもたらした。そして直観的、宗教的、神秘的、オカルト的、霊的といった言葉で表現される陰、つまり女性の意識モードは、つねに男性指向の社会で抑圧されつづけてきた。

東洋の神秘思想は、こういった女性的なモードを發展させ、人間性のふたつの側面の統合を探求する。完全に悟りを開いた人間とは、老子の言を借りれば、「男らしさを知りながら女らしさを保つ者」ということになる。」 [カブラ, 165-6.]（傍点は著者）（下線は発表者）

14. マキューアンの作品に見られるタオイズム（老子の思想）

(1) She [Julie] was reading mystical or sacred texts St. John of the Cross, Blake's longer poems, Lao-tsu. [McEwan, *The Child in Time*, 56.]（下線は発表者）

(2) I [Jeremy] regarded it as a triumph of tactics, of thinking ahead; by concealing her irritation she [June] had won through. But it was not a tactic, she told me when I congratulated her, it was an attitude of mind she had learned long ago from Lao-tzu's The Way of Tao [...] "The Way of heaven excels in overcoming though it does not contend." [Ian McEwan, *Black Dogs* (1992; New York, Anchor Books, 1999) 13.]（下線は発表者）

15. ニューサイエンスの後退と*Enduring Love* (1997)

(1) 科学ライターのJoe Rose（理論物理学者Roger Penroseのもじりか）とロマン主義詩人キーツの研究者Clarissa MelonはJed Parry（被愛妄想患者）のJoeに対するストーカー行為をめぐり、見方が対立。危険な精神異常者につけねらわれていると考えるジョーに対し、クラリッサは頭のいかれた男の滑稽な恋物語と見る。

合理主義のジョーの見方に軍配を挙げる *Black Dogs*

[McEwan] “I’ve thought for a long time that I would like to write a novel in which the hero is super-endowed with a belief in rationality but he turns out to be right. And the reader, and the police, and his wife, are all wrong. It [Enduring Love] was something of a counter piece for *Black Dogs*, in which the central figure is someone who is deeply suspicious of the rational.”

[“The Space Books Feature: Ian McEwan”] (下線は発表者)

- (2) 「悟り」における意識の状態の解明 脳の働き、意識を科学的に解明しようとする動き  
例) Roger Penroseの*The Emperor's New Mind* (1989) 量子力学的アプローチ  
Antonio Damasio の *Descartes' Error* (1994)など 生物学的アプローチ

16. *Black Dogs*以降に見られる生物学的人間観とポストモダンの要素(物語行為を通じての現実認識に対する関心)

物語行為を行う人間の認識能力・記憶能力の限界(脳の活動の生物的側面)が前景化される

ニューサイエンスが分子生物学などに取って代わられた科学界の傾向を反映

*Atonement* (2001)以降は、道徳的テーマが加わる。例) Briony Tallisのレイプ犯目撃の際の認識過誤

17. *Amsterdam* における、ヒッピー的価値観・女性性を守る象徴的存在としてのMolly Lane (Beatles “Penny Lane” のもじり?)

- (1) 若い頃に性革命を支持していた雑誌編集長ヴァーノンは、モリーの死後、彼女が隠し持っていた外務大臣ジュリアン・ガーマニーの女装写真(女性性への憧れ)を攻撃の材料にし、雑誌の売り上げを伸ばそうとする。  
[Clive] “You[Vernon] yourself were once an apologist for the sexual revolution. You stood up for gays.”  
[Ian McEwan, *Amsterdam* (New York: Nan A. Talese, 1998) 78.]

- (2) 友人の作曲家クライヴ、ヴァーノンを非難するが、一方、レイプ事件(女性性の蹂躪)を目撃しながら、その場を立ち去る 夢の中で、モリーに非難される。

“But you know, I [Molly] really needed your[Clive’s] help that day in the Lake District.” [McEwan, *Amsterdam*, 183.]

18. 女性性と“vulnerability”

- (1) モリーはガーマニーの女装趣味(“his vulnerability”)を守っていた

[Clive] “This was what had drawn her [Molly] to Garmony the secret life, his vulnerability, the trust that must have bound them closer. Good old Molly.” [McEwan, *Amsterdam*, 75.] (下線は発表者)

- (2) *The Child in Time*中の、生身の首相の“vulnerability”

This [the PM] was a neat, stooped sixty-five-year-old with a collapsing face and filmy stare, a courteous rather than an authoritative presence, disconcertingly vulnerable. [McEwan, *The Child in Time*, 93.] (下線は発表者)

## 19. 仕事と男性原理

- (1) 政務次官Charles Darke (Thelmaの夫)への恋心(女性性)を抑え込む首相(ただし、作品中においては首相の性別の言及は意図的に曖昧にされている。男性/女性原理と生物的性別は別問題であると示すためか。)

“The cultivation and expression of feeling is an irrelevance in my[Prime Minister’s] profession and I can speak with none of these people in an intimate way.” [McEwan, *The Child in Time*, 221.] (下線は発表者)

仕事(public)の世界は、感情を持ち込むことができず、それゆえ男性性が優先される領域。

- (2) Rose Garmony (ガーモニー夫人)、小児科医(母性を発揮できる職業)

職業に注ぐ情熱(男性性)と女性性を兼ね備えることによりヴァーノンに勝利。

スキャンダル写真を先回りして公開、円満な家庭生活(private)をテレビで流し、ヴァーノンの特ダネをだいなしにする。(家の外で待ち構えている報道陣を見て) She [Rose] felt just as she liked to be before a difficult day at the children’s hospital: calm, alert, impatient to begin the work. [McEwan, *Amsterdam*, 102-3.]

- (3) ローズの限界 モリーの存在意義を理解できない

Then he [Garmony] had pulled out all Molly Lane’s letters, the ones that stupidly indulged his grotesque cravings. Thank God that episode was over, thank God the woman was dead. [McEwan, *Amsterdam*, 103.]

*Amsterdam*において最終的な勝者となるのは、George Lane (モリーの夫。モリーの元恋人たちの破滅をもくろむ)とFrank Dibben (ヴァーノンの部下。カシウスにたとえられる。陰でヴァーノンを焚きつけ、彼の失脚後は編集長におさまる) 女性性の蹂躪・抑圧の行き着く先の社会を暗示

## 20. 生物学者E.O. Wilsonの “consilience” (自然科学的知見と人文科学的知見などの統合による新しい人間理解を目指す) 思想 ニューサイエンスと同質の志向。科学的客観性を付与。

- (1) Another interesting feature is the prevalence here of what E.O. Wilson calls “consilience.” The boundaries between different specialized subjects begin to break down when scientists find they need to draw on insights or procedures in fields of study adjacent or useful to their own. The old Enlightenment dream of a unified body of knowledge comes a little closer when biologists and economists draw on one another’s concepts; neuro-scientists need mathematicians, molecular biologists stray into the poorly defended territories of chemists and physicists. Even cosmologists have drawn on evolutionary theory. [Ian McEwan, Introduction, *What We Believe but Cannot Prove Today’s Leading Thinkers on Science in the Age of Certainty*, ed. John Brockman (New York: Harper Perennial, 2006) xvii.] (下線は発表者)

- (2) “The third culture”の提唱者John BrockmanのEdge Projectに参加

- 「第3の文化」 C.P.Snowの*The Two Cultures and the Scientific Revolution* (1959) (「2つの文化」, すなわち自然科学と人文科学の融合を説いた)を発展させた思想運動
- Edge Project インターネットを通じて、専門分野を横断して自由に意見交換を行い、人間理解を深めようとする試み。